

平成30年度 地方創生推進交付金 検証結果（まちづくり委員会）

No	事業 評価	意見	今後の事業の検討点	備考欄
1	B	震災もあった中、成果はあったと思います。	町民の一体感がまだまだのような気がします。恐竜化石を活かしたまちづくりなのか町の産業を活性化するための恐竜ワールド構想推進なのか、どちらも違和感のない意識が大切になるかと思っています。もっとも学校、社会教育等でも学習すること。大人だけではなく子どもたちにも関わってもらえるグッズやキャラクターづくりも良いかと思っています。	
2	C	桐生大学の学生とのつながりを将来に向けてうまく活用する方法があれば良い。恐竜グッズの試作・販売に対しての支援をより強固にしてほしい。	地域商社の方向性がより良い事業として、地域住民の意見を広く聞くこと、物販のできる博物館にすることも検討してほしい。	
3	C	震災があり、仕方がない部分もあるが、恐竜の盛り上がりが地元で足りない。	都市部の恐竜に興味のある人が、むかわ町に行ってみたいと思わせる仕組みづくりが必要。	
4	C	震災があったが、事業が進んでいることは評価する。しかし、事業が効果的であったかは、材料が少なく現状ではまだ判断できない。震災以降、生活や雇用に不安を持っている町民が増えており、そのような中、震災前に計画した「恐竜化石を活かしたまちづくり」を、計画通りに、どんどん進めていくことが良いとは思えないので、事業に強弱をつけて進めてほしい。	恐竜化石は、今後の研究でさらに価値が上がることも予想される。じっくり進めていくことも大切である、この事業自体、行政が恐竜化石関連で色々な取組を後押しすることになっており、進め方は良いと考える。経済効果や恐竜化石の価値が漠然としているだけに、町民の盛り上がり以上に、行政が先行しすぎると、「恐竜化石を活かしたまちづくり」で被災した町民の生活や雇用が守れるのかという意見になるので進め方に注意をいただきたい。	
5	B	震災もありイベントの中止などPR活動に苦労した中、博物館の入館者数、関連グッズの開発・売上において成果があったと思う。	PRグッズの開発促進と開発した商品のPR不足。町民への入手方法の周知をお願いしたい。町民もPR活動に一役担える商品としてピンバッジの強化と名刺台紙の開発に期待している。	
6	B	震災の影響があった中でも目標値を超えるものがあり、効果的な取組であったことが明確である。	地球体験館が閉館したことによる穂別博物館来館者数への影響についての検証が必要になるのではないか。	

7	C	<p>グッズの販売は効果が見られるものの、来館者数は効果がみられないため（地震の影響でやむをえない状況と思われる面もある）。</p>	<p>恐竜ワールド構想と町の活性化の検討として、飲食の目玉をつくり、来館者数増、グッズの販売増につなげる。</p>	
8	C	<p>数値上は未達成項目事業が複数あるものの、いずれも胆振東部地震の影響を考慮する必要がある。数値はこのたびの事業の有効性、必要性を否定しておらず引き続き推進すべきと考えます。</p>		